

会報

日本食品化学学会 2020 年度 総会 議事録

日 時： 2020 年 5 月 28 日（木）～7 月 31 日（金）
場 所： 書面開催

● 総会 書面表決書 集計結果

7/31（金）までに事務局に到着した表決書は総数 271 件でした。
内訳は以下の通りです。

- 議案 1. 評議員（第 13 期）の選任
- 議案 2. 2019 年度 事業報告および決算報告の承認
- 議案 3. 2020 年度 事業計画および収支予算の決定
- 議案 4. 次々期（2022 年度）学会長の選任
- 議案 5. 名誉会員の承認

	議案 1	議案 2	議案 3	議案 4	議案 5
賛成	271	271	269	271	271
反対	0	0	1	0	0
未回答	0	0	1	0	0

以上の結果を以て、今回の総会により議案 1～5 全てが承認されたものと致します。

議案 1. 評議員（第 13 期）の選任

理事会より以下の候補者が推薦され、選任が承認されました。

（任期：2021 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日）

（50 音順・敬称略）

氏 名	所 属
秋場 高司	アサヒグループ食品株式会社
一色 賢司	一般財団法人 日本食品分析センター
伊藤 澄夫	富永貿易株式会社
伊藤 裕才	共立女子大学 家政学部
稲熊 隆博	信州大学 農学部
片山 茂	信州大学 農学部
川原 信夫	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター
魏 民	大阪市立大学大学院 医学研究科
橘田 和美	独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門
柴田 敏行	三重大学 大学院生物資源学研究科
杉本 直樹	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部
多田 敦子	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部
辻井 隆幸	フジバングループ本社株式会社
堤 智昭	国立医薬品食品衛生研究所 食品部
東田 千尋	富山大学 和漢医薬学総合研究所 神経機能学分野
徳楽 清孝	室蘭工業大学大学院 工学研究科
鳥羽 真由子	サントリー MONOZUKURI エキスパート株式会社
長岡 寛明	長崎国際大学 薬学部
中村 宗一郎	信州大学
増田 修一	静岡県立大学 食物栄養科学部
三宅 義明	愛知淑徳大学 健康医療科学部
宮下 隆	キューピー株式会社
六鹿 元雄	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部
義澤 克彦	武庫川女子大学 生活環境学部
義平 邦周	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社

議案 2. 2019 年度 事業報告および決算報告の承認

以下の事業報告案および決算報告書案が提出され、原案通り承認されました。

2019 年度事業報告書（案）

(1) 第 25 回総会・学術大会の記録

学 会 長： 中村宗一郎（信州大学 理事・副学長）

日 時： 2019 年 6 月 6 日（木）～6 月 7 日（金）

場 所： キッセイ文化ホール（長野県松本市水汲 69-2）

学会長講演： 「食と健康」

中村宗一郎（信州大学 理事・副学長）

招待講演 (1): 「味噌中の短鎖ペプチドの構造と機能」

佐藤健司 (京都大学大学院農学研究院応用生物科学専攻海洋生物生産学講座 教授)

白子紗希 (京都大学大学院農学研究院 博士課程後期)

招待講演 (2): 「食品成分の腸管吸収動態」

松井利郎 (九州大学大学院農学研究院生命機能科学部門食料化学工学講座 教授)

招待講演 (3): 「運動+栄養摂取の相乗効果—その背景と効果のエビデンス—」

増本静江 (信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所先端疾患予防学部門 教授)

特別講演: 「食品安全行政の最近の動向」

吉田易範 (厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課長)

奨励賞受賞者講演:

「トランスクリプトーム解析を利用した、食材の機能性と品質に関わる遺伝子群の探索」

田村倫子 (東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学科 准教授)

「健康食品及びその素材の品質確保に関する研究」

増本直子 (国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部 研究員)

一般発表: (口頭) 20 題、(ポスター) 53 題

参加者数: 250 名 (内訳: 会員 132 名、非会員 48、学生 26、招待・来賓 18、実行委員 26)

関連行事: ① 評議員会 (6/6) ・編集委員会 (6/7)

② 若手優秀発表賞

・口頭発表部門

A-7 「DART-MS を用いた食品用ポリアミド製品の簡易材質判別法」

阿部 裕 (国立医薬品食品衛生研究所)

A-10 「固相抽出を用いた海藻中の無機ヒ素および有機ヒ素の分析法開発」

殿岡真梨子 (日本食品分析センター)

・ポスター発表部門

B-6 「タンパク質ゲルに架橋導入するオリブ葉由来フェノール化合物」

赤澤隆志 (香川大学 農学部)

B-10 「植物エキスライブラリーの構築とその食薬区分情報について」

河上仁美 (医薬基盤・健康・栄養研究所)

B-20 「カテキン類の一斉分析を目指したシングルリファレンス HPLC 定量法の開発」

高橋未来 (立命館大学大学院)

③ 交流会 (6月6日 18:30 ~、参加者数 132 名) (ホテルブエナビスタ)

④ ランチョンセミナー 2 件、企業展示 18 件

参加費: 学術大会 会員 4,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円

交流会 事前申込 7,000 円、当日申込 9,000 円、学生 3,000 円

(2) ifia JAPAN 2019 食の安全・科学フォーラム 第 18 回セミナー & 国際シンポジウムの記録

テーマ: 食品安全規格の国際整合性と野菜の衛生管理

Global Harmonization of Food safety & hygiene management of Vegetables

主催: 日本食品化学学会、日本食品微生物学会、日本食品衛生学会

共催: 日本食品衛生協会、食品化学新聞社

協賛: 日本食品添加物協会、日本食品科学工学会、日本防菌防黴学会、日本調理科学会

日時: 2019 年 5 月 22 日 (水) 10 時 00 分 ~ 16 時 50 分 (受付開始 9:30 分)

場所: 東京ビッグサイト 青海展示会場内

演題及び講師:

第一部 食品の安全管理の国際動向

「台湾における食品安全政策」

陳 俊榮 (台北駐日経済文化代表処科学技術部部長 台北医科大学教授)

「対米・対EU輸出食肉認定制度について」

田中鈴子 (厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課課長補佐)

「食品のリスク評価とその国際整合性」

川西 徹 (内閣府食品安全委員会委員)

第二部 野菜の衛生管理

「野菜の汚染実態と食中毒の防止」

森 哲也 (一般財団法人東京顕微鏡院食と環境の科学センター微生物検査部技術専門係長)

「殺菌に係わる近年指定された食品添加物」

久保田浩樹 (国立医薬品食品衛生研究所食品添加物部主任研究官)

「野菜の洗浄・殺菌の最新技術と次亜塩素酸の効果的な使用方法」

福岡智司 (三重大学大学院生物資源学研究科教授)

「カット野菜の安全性と製造のポイント」

宮下 隆 (キユーピー株式会社品質保証本部食品安全科学センター/センター長)

参加者: 130名

参加費: 前売り一般全日 12,000円、前売り一般半日 9,000円、
前売り会員全日 9,000円、前売り会員半日 6,000円、
当日 15,000円

(3) 第35回食品化学シンポジウムの記録

担当理事: 鰐淵英機 (大阪市立大学大学院医学研究科)

テーマ: 食品のイノベーションとレギュレーションに関する諸課題について

日時: 2019年11月8日(金) 13:15-17:00

場所: 日本薬学会会長井記念ホール (渋谷区渋谷 2-12-15)

講演(1) 食品の機能性追求に向けて～コーヒーは機能性食品と言えるか?～

ネスレ日本株式会社 ウエルネスコミュニケーション室 室長 福島洋一

講演(2) 機能性食品の安全性評価

大阪市立大学大学院 医学研究科 環境リスク評価学 准教授 魏 民

大阪市立大学大学院 医学研究科 分子病理学 教授 鰐淵英機

講演(3) 機能性食品の臨床研究活性化に向けて

大阪市立大学大学院 医学研究科 医薬品・食品効能評価学 教授 日下部哲也

講演(4) ゲノム編集技術応用食品の現状と課題

国立医薬品食品衛生研究所 毒性部長 北嶋 聡

国立医薬品食品衛生研究所 生化学部長 近藤一成

講演(5) 食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針

内閣府食品安全委員会評価第一課 課長補佐 磯崎正季子

講演(6) 食品表示の現状と課題

消費者庁食品表示企画課長 五十嵐麻衣子

参加者数: 95名(会員48、非会員25、招待・報道9、主催者7名、講演者6名)

会費: 日本食品化学学会員/個人・法人会員 3,000円、非会員 5,000円、学生 無料

(4) 日本食品化学学会誌 第26巻の発行

第26巻1号の発行 発行日: 2019年4月26日 発行部数: 950部

論文5編 ノート3編 資料1編 総頁数: 106頁

第26巻2号の発行 発行日: 2019年8月28日 発行部数: 950部

論文3編 ノート3編 総頁数: 64頁

第26巻3号の発行 発行日: 2019年12月27日 発行部数: 950部

論文5編 ノート1編 総頁数: 62頁

(5) 理事会及び各種委員会の開催

理事会: 2回(書面理事会1回)、評議員会: 1回、編集委員会: 1回

(6) 会員数

2019年12月31日現在: 個人会員 565名、法人会員 65法人、名誉会員 15名

(7) 共催、協賛・後援

- 1) 他団体が主催で、本学会が共催となる学術集会
依頼なし
- 2) 本学会が主催で、他団体に共催を依頼する学術集会の場合
依頼なし
- 3) 他団体が主催で、本学会が協賛・後援となる学術集会の場合
 - <協賛> 第17回高付加価値食品開発のためのフォーラム（日本食品・機械研究会）
 - <後援> 第八回低温・氷温研究会（氷温研究会）
第2回 日本食品衛生学会 北海道・東北ブロックセミナー（日本食品衛生学会）
- 4) 本学会が主催で、他団体に協賛・後援を依頼する学術集会の場合
依頼なし

2019年度決算報告書(案)

(2019年1月1日～2019年12月31日)

収 入			支 出		
	予算金額	決算金額		予算金額	決算金額
会費(個人)	1,965,000円	1,635,000円	学術雑誌発行費	3,500,000円	2,942,308円
会費(法人)	2,460,000円	2,550,000円	学術大会費	400,000円	393,468円
会費(賛助)	0円	0円	シンポジウム費	200,000円	198,609円
投稿料	740,000円	840,000円	表彰費	380,000円	380,696円
広告料	1,000,000円	1,010,000円	会議費	250,000円	190,022円
雑収入	230,000円	274,255円	ホームページ運営費	160,000円	206,611円
			旅費・交通費	400,000円	402,960円
			賃借料	0円	0円
			印刷費	120,000円	44,635円
			郵送費	450,000円	461,427円
			振替手数料	80,000円	83,548円
			事務費	200,000円	127,550円
			予備費	30,000円	0円
(収 入)	(6,395,000円)	(6,309,255円)	(支 出)	(6,170,000円)	(5,431,834円)
前期繰越金	3,742,934円	3,742,934円	次期繰越金	3,967,934円	4,620,355円
合 計	10,137,934	10,052,189円	合 計	10,137,934円	10,052,189円

2020年2月28日

事務局長 井之上 浩一



会計監査報告

上記の決算書を承認するとともに、会則に従って適正に執行されたと認めます。

2020年3月9日

監 事 伊藤 美千穂



尾崎 麻子



議案 3. 2020 年度 事業計画および収支予算の決定

以下の事業計画案および収支予算案が提出され、原案通り承認されました。

2020 年度事業計画書 (案)

(1) 第 26 回総会・学会大会の開催

学 会 長： 金谷重彦 (奈良先端科学技術大学院大学先端科学研究科教授)

日時・場所： 現地開催中止 ⇒ 誌上開催

学会長講演： 「食データサイエンス」

金谷重彦 (奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授)

招待講演①： 「作物種のメタボロミクス研究と食の評価について」

峠 隆之 (奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 准教授)

招待講演②： 「新解釈 食と農薬」

松田一彦 (近畿大学 農学部応用生命化学科 教授)

特 別 講 演： 「食品安全行政の現状と課題 (仮)」

中山智紀 (厚生労働省 医薬・生活衛生局 食品基準審査課 課長)

奨励賞受賞者講演： 1 題

一 般 発 表： 口頭およびポスター (要旨での発表)

関 連 行 事： 若手優秀発表賞 (要旨にて選考)

参 加 費： 会員 (冊子希望) 4,000 円、会員 (PDF のみ希望) 2,500 円、非会員 6,000 円

(2) ifia JAPAN 2020 食の安全・科学フォーラム 第 19 回セミナー & 国際シンポジウム

テ ー マ： 食品の輸出入拡大と穀物の衛生管理

Expansion of food imports and exports and grain sanitation management

主 催： 日本食品化学学会・日本食品微生物学会・日本食品衛生学会

共 催： 日本食品衛生協会、食品産業センター、食品化学新聞社

協 賛： 日本食品科学工学会、日本防菌防黴学会、日本調理科学会

日 時： 5/11 現在、中止もしくは延期の方向で調整中

場 所： 東京ビッグサイト青海展示棟 B セミナー会場 105

定 員： 150 名

演題及び講師：

第一部 食品の輸出入に伴う規格基準と国際整合性

「農林水産物・食品の輸出促進事業について (米と米粉を例にして)」

農林水産省政策統括官付 農産企画課 米穀貿易企画室 課長補佐 島本健一 氏

「農林水産物の残留農薬対策と国際整合性」

厚生労働省医薬・生活衛生局 食品基準審査課 残留農薬等基準審査室 井上隆弘 氏

「食肉の輸出拡大に向けた取り組み (仮)」

厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課 担当官

第二部 穀物の衛生管理

「穀物の有害金属・元素の検出法と国内外の規格基準」

国立医薬品食品衛生研究所 食品部第 4 室長 鈴木美成 氏

「穀物の残留農薬検査手法における最新動向 (仮)」

一般社団法人残留農薬研究所 試験事業部 坂真智子 氏

「食物アレルギー表示 (穀物を中心に) の現状」

国立医薬品食品衛生研究所 生化学部第 3 室長 安達玲子 氏

「米国における穀物の原料事情」

アメリカ穀物協会 日本代表 浜本哲郎 氏

(3) 第36回食品化学シンポジウムの開催

担当理事： 日下部理事
 テーマ： キーワード案／食品行政、機能性表示など
 日時： 2020年11月(予定)
 場所： (未定)
 定員： 150名程度
 会費： 会員3,000円、非会員5,000円(予定)

(4) 日本食品化学学会誌 第27巻の発刊

第27巻1号 2020年4月発刊予定
 第27巻2号 2020年8月発刊予定
 第27巻3号 2020年12月発刊予定

(5) 理事会および各種委員会の開催

理事会： 1回、評議員会： 1回、編集委員会： 1回

2020年度収支予算書(案)

(2020年1月1日～2020年12月31日)

収 入			支 出		
項目	単価	予算金額	項目	数	予算金額
個人会員(565名)	¥3,000	¥1,695,000	学術雑誌発行費	3	¥3,500,000
個人会員(滞納分)	¥3,000	¥222,000	学術大会費	1	¥400,000
法人会員(65社80口)	¥30,000	¥2,400,000	シンポジウム費	1	¥200,000
法人会員(滞納分)	¥30,000	¥0	表彰費		¥280,000
賛助会員(0社)	¥30,000	¥0	会議費		¥250,000
投稿料		¥840,000	ホームページ費		¥210,000
広告料		¥1,010,000	旅費・交通費		¥400,000
雑収入		¥270,000	印刷費		¥170,000
			郵送費		¥550,000
			振替手数料		¥90,000
			事務費		¥400,000
			予備費		¥200,000
(収入)		¥6,437,000	(支出)		¥6,650,000
前期繰越		¥4,620,355	次期繰越金		¥4,407,355
合計		¥11,057,355	合計		¥11,057,355

議案 4. 次々期（2022 年度）学会長の選任

理事会より松藤寛氏（日本大学生物資源科学部）が推薦され、承認されました。

議案 5. 名誉会員の承認

理事会より水上元氏が推薦され、承認されました。

● 奨励賞および論文賞について

奨励賞、論文賞および広告主論文賞が下記の方々に授与されました。

第 22 回 奨励賞

菊地博之（国立医薬品食品衛生研究所 食品部 主任研究官）

研究課題：「食品中の残留農薬等の分析法開発に関する研究」

第 15 回論文賞（学会誌掲載順）

Preparation of an allergen-specific immunomodulator by phosphorylation of a major buckwheat globulin allergen, Fag e 1, with diminished IgE response *via* Tfh cell activation (Vol.26(2),91-98(2019))

Ahmad M.Al Athamneh, Supatta Chawalitpong, Yuta Suzuki, Daiki Yamaguchi, Soichiro Nakamura, Shigeru Katayama

A simple and sensitive LC-MS/MS method for determining residues of the tranquilizer chlorpromazine in livestock products, seafood, and honey (Vol.26(3),125-131(2019))

Hiroyuki Kikuchi, Takatoshi Sakai, Tomoko Okura, Satoru Nemoto, Hiroshi Akiyama

第 4 回広告主論文賞 <島津製作所論文賞>

Concentration of neonicotinoid insecticides and their metabolites in Japanese bottled green-tea beverages and their safety evaluation (Vol.26(1),17-27(2019))

Akiko Takamoto, Yoshinori Ikenaka, Mayu Sugimoto, Manami Iwano, Satoshi Fukushima, Takahiro Ichise, Shouta M.M.Nakayama, Keisuke Takahashi, Keisuke Kato, Hiroshi Ishibashi, Mayumi Ishizuka, Koji Arizono

以上